

此表ニ基キテ推算スルニ若シ石油滓ヲ用フレバ八輪車ニ於テハ七割二分九厘六輪車ニ於テハ七割三分三厘ノ費銀ヲ節略スルヲ得ル (The Engineer Sept. 16, 1887)

因ニ謂フアルカート機關車ノ圖ハ The Railroad and Engineering

Journal Aug. 1887 ニ載セタリ(石・絢)

○船ノ形

近頃エデン、ボロウニ於テサー、ウルリアム、ダムソン氏船ノ波ト云フ題ニテ一場ノ演說ヲナシ終リニ臨ンデ曰ク理論ヨリ推究スレバ船ニ抗スル力ハ水面ニ多クシテ其以下ニ寡シ故ニ若シ抵抗寡キ船ヲ作ルナラバ佛國ノ古風ニ倣ヒ船体ノ水面以下三尺四尺乃至五尺ノ部ヲ濶クセバ速力モ疾急ナルベク荷量モ多大ナルベシ宜シク講究スベシ云々 (Industries Sept. 9th 1887) (石・絢)

○石ノ強弱ヲ試ムルニ其石ヲ鉛板ニテ挾ムノ害

此頃教授アン

ウイン氏ブリチシ協會ニ呈出シタル書中ニ曰ク二拾年前ハ石類ノ強

弱ヲ試ムルニ臨ミ平等ニ配當センガ爲メニ鉛板ヲ以テ之ヲ挾ムヲ常トス予其方法ノ正シカラサルヲ知ル故ニ予ハ常ニ鉛板ノ代リニ凝結^{プラスチック}物料ヲ用ヰシガ其結果ニ於テ著シキ差違ヲ生ズ四吋立方ノ石ヲ取テ鉛板ニ挾ミ之ヲ壓下スレバ其強サハ凝結物料ヲ用ヰタルモノ、七分三乃至五分三ニ過キズ其碎裂シタル形ハ鉛板ヲ用ヰシモノニ於テハ殆ンド四拾五度ノ傾斜ヲ有スル錐形トナリ凝結物料ヲ用ヰシモノニ於テハ殆ンド垂直ノ錐形ヲナス云々 (Industries 9th Sept 1887) 是ニ因テ之ヲ觀レハ當今實地ニ石臺ニ鐵材ヲ置ク時ニ鉛板ヲ挿ムノ法ハ甚タ良法ナラザルベシ(石綿)

○陶管ノ強弱 此頃岩田武夫君ノ依頼ニ應シ常滑産陶管ノ強弱ヲ試驗シタルニ左ノ如シ

種類	長平均外	徑	内	徑	厚	壹箇ノ	管中水壓力ニ接	壹個ノ	價
						重量	シ破碎シタル度	持込共	雜記